

第2回「地域のニーズに応じたバス・タクシーに係るバリアフリー車両の開発」 拡大検討会議事概要

1. 日時

平成21年10月16日（金）15:30～17:30

2. 場所

国土交通省合同庁舎2号館15階海事局会議室

3. 出席者

鎌田実（委員長）、藤井直人、大野寛之、岡本博、森祐司、今福義明、根本克己、川村泰利、水田誠、富田征弘（代理 小沼）、秋澤忠、丹山裕和、矢口鉄雄、助川浩、飯田光也、岡野俊豪、泰松潤、仲條直樹、山下和彦、三崎匡美、福元聡、吉川博之、沢田大輔、小滝晃（代理 駒形）、石崎仁志（代理 木村）、清谷伸吾（代理 甲斐）、村田茂樹

事務局：横谷靖、荒井紀博（以上日本自動車研究所）、高井誠治、本間優子（国土交通省）

敬称略順不同

4. 議事概要

鎌田委員長の挨拶の後、以下の項目について報告及び議論がなされた。

（1）バス・タクシー共通調査の実施計画（資料1）

事務局より、バス・タクシー共通調査の進め方について説明があり、了承された。

（2）バス作業部会における検討状況の報告（資料2～5）

事務局より、バス作業部会での検討状況について報告があり、以下について承認された。

- ・ ラッシュ対応仕様として、少なくとも後部座席の最前列を1人掛けとする座席配列を追加すること
 - ・ ラッシュ対応仕様追加のため後部座席の床と通路部との間の段差を解消する場合に限って、段差高さを250mmまで許容すること
- なお、委員より主に以下の発言があった。
- ・ 危険箇所の赤表示は色覚異常者には暗く見えることを考慮すべきである。
 - ・ 中期対応イメージ案に基づくモックアップは年明けには完成する予定である。
 - ・ 長期対応で検討するフルフラットバスとして、通路部がフラットなものは座席への段差が高くなることもあり、何を優先するか検討が必要である。
 - ・ 走行不可路線調査について、車両の改良でどこまで対応できるか等、精査が必要である。

（3）タクシー作業部会における検討状況の報告（資料6、7）

事務局より、タクシー作業部会での検討状況について報告があり、引き続き調査を進めていくことで了承された。なお、委員より主に以下の発言があった。

- ・ 横乗り・後乗りの公道評価は、映像を元にそれぞれの特徴を評価し、必要に応じ追加調査を行うべきである。
- ・ ユニバーサルデザインタクシー乗降の安全性を確保するには乗降場所の制約等の課題も生じ

る。

(4) 東京モーターショーにおける展示および調査（資料8）

事務局より、東京モーターショーにおける展示内容およびアンケート調査について説明があり、了承された。

(5) 総括

鎌田委員長より総括がなされた。

以上